



若手アーティスト支援に注力を 行政のデジタル化 府域の格差解消を

—加治木府議の9月定例会の質疑・質問より

加治木一彦府議は10月8日、府議会府民文化常任委員会で文化芸術の振興策や府内市町村の行政事務のデジタル化などについて質疑・質問をしました。概要は以下の通りです。

府は「Osaka Art Market」と題し2023-25年度の3年間、これからの活躍が期待できる若手アーティストへの支援や多くの方にアートに触れる機会を提供しています。例えば、入場無料の展示会場で音楽にあわせて絵を描いたり、書道を披露したりする、といった手法で人々の興味を引き付け、アートに関心を持つ層を広げるのが狙いです。国の補助金が打ち切られた後も府が支援を続けるよう求めました。

府内にはデジタル化に強い専門人材を単独で確保するのが難しい市町村もあります。行政事務のデジタル化を府が積極的に支援すべく、専門人材を市町村に派遣したり、職員向けの研修を開いたりするなど府が広域自治体として役割を担っています。居住地にかかわらず恩恵を受けられるよう要望しました。

このほか、能登半島地域の子ども大阪観光招待事業や万博会場内の多言語対応なども取り上げました。



▲ 府民文化常任委員会で質問する加治木府議

この日の様子は府議会ホームページの動画配信でご覧いただけます。→

大阪府議会ホームページ

▶ http://www.pref.osaka.lg.jp/gikai_giji/toppage/index.html



淀川舟運を生かした観光誘客を

—関西広域連合議会での質問より

加治木一彦府議は今年度、関西広域連合議会議員も務めています。8月22日、米子コンベンションセンター(鳥取県米子市)で開かれた議会で一般質問をしました。

これまでも大阪府議会で取り上げてきた淀川舟運を生かしたにぎわいづくりについて質問。西脇隆俊・副広域連合長(京都府知事)から、万博期間中に京都までの船旅で関西の歴史や文化を学び、特産品を楽しむなど魅力を堪能してもらえる取り組みも検討。万博終了後も淀川舟運を生かした効果的な観光誘客に取り組む、との答弁がありました。

十三防災船着場、淀川大堰閘門とも2025年春の大阪・関西万博の開幕に向け工事が進んでいます。十三から枚方や京都・伏見まで観光船が就航できるようになります。流域の魅力づくりや交流の活性化に引き続き取り組んでいきます。



▲ 十三防災船着場



▲ 淀川大堰閘門

活動日誌より

11月 大阪市北区

19

大阪府議会の出前授業で神村学園大阪梅田学習センターを訪問しました。「総理大臣を直接選挙で選ぶ

ことはできないのですか」など手ごわい質問もありました。生徒たちが少しでも政治を身近に感じることができたなら何よりです。



▲ 出前授業で解説

11月 泉大津市

20

堺泉北港の助松ふ頭を視察しました。現在、主にニュージーランドや東南アジア方面の中古車の輸出



▲ 担当者の説明を聴取

拠点として使われています。コンテナ貨物の輸出入にも使われており、ガントリークレーンが見えます。

お知らせ▶



「大阪府議会議員 かじき一彦」

Facebookページにて、議員活動の情報発信をしております。当該ページに「いいね!」を押していただき、ぜひご覧ください。



加治木一彦



かじき一彦